

日本の三名園 「後楽園」

日本の名園めぐり

後楽園(こうらくえん)は岡山県岡山市北区後楽園にある日本庭園(大名庭園)で、日本三名園の一つである。



概要

江戸時代初期に岡山藩主・池田綱政が岡山郡代官・津田永忠に命じて造らせたもので、1687年(貞享4)に着工し14年の歳月をかけ1700年(元禄13)に完成した。元禄文化を代表する庭園で、国の特別名勝に指定さ



延養亭

れている。岡山市内を流れる旭川をはさみ、岡山城の対岸の中州に位置する。藩主が賓客をもてなした建物・延養亭(えんようてい)を中心とした池泉回遊式の庭園で岡山城や周辺の山を借景としている。江戸時代には延養亭を茶屋敷、庭園を後園または御後園と呼んでいた。1871年(明治4)園内を一般開放するにあたって、これを後楽園と改めた。総面積は十三万三千㎡で東京ドームの約3倍である。同園は岡山県が所有

管理するが、管理業務については県の外郭団体である財団法人岡山県郷土文化財団が県からの受託業務として行っている。
築庭の経緯
現在、後楽園から旭川を隔てて南にある岡山城は1597年(慶長2)、豊臣家五大老の一人で、時の岡山藩主であった宇喜多秀家が旭川の流域にあった「岡山」という小高い山を利用して築城したものである。この時、旭川を城、及び城下町の防御を固めるための堀の代わりとして用いるため

に、流路を岡山城の手前で大きく東方へ曲げて城の北東面に沿わせ、さらに南流するように変えたのである。これにより、城と城下町の防御は強固なものとなったが、あまりに不自然な流路となつたため、以後、岡山城下はたびたび洪水に悩まされることになる。
藩主の座は宇喜多氏の後、小早川氏から池田氏へと移り変わり、4代目の池田綱政の治世となる。綱政は度重なる洪水の被害に疲弊していた岡山藩の財政再建のために

談話室

フリーアナウンサー

近藤サトは語る

東日本大震災の数日後、防災バックに白髪染め入れようとしていた自分に愕然とした。「食べ物にも困っている人がいるのに、私は何なのか?」中身が空っぽだ。これをきっかけに白髪染めをきっぱりやめた。まだバブル経済の香りが残る1991年、フジテレビのアナウンサーになった。白髪とのつき合いはその頃からだ。しかし、「見た目」が重視される華やかなテレビの世界で、白髪を隠さずに出演できる雰囲気はなかった。生え際から白髪がのぞいたまま出ようとして、番組スタッフが「染めますか?」と飛んできたこともある。

自然にしているだけなのに、「みすばらしい」と感じられてしまう違和感もちつつ、表舞台では染め続けてきた。白髪染めをやめた今、五十年重ねてきた「経験」に自信をもっている。「若い子には、まだまだ負けない」。白髪も、しわも、すべてが自分。「若い」を素直に受け入れる事ができた。周りにも白髪染めをやめる人が増えきたのを感じる。染めること自体は拒否しないが、「若さ」が美しさの中心にしてきた社会の成熟が始まったように思う。美しさの定義は人それぞれでいい。そんな考えを広めたい。いまの関心事は「どうすれば白髪がキレイに見えるか」だ。
近藤サトさんが語っていた。 K・ドラゴン

新田開発はもとより、放水路・百間川の開削などの抜本的な洪水対策を行い、藩の財政を再建させた。綱政は岡山在城中に足しげく庭園に通い、工事開始4年後の1691年(元禄4)には完成したばかりの延養亭で綱政が永忠ら工事に携わっている家臣の労をねぎらつて園内で宴を催していることから、この時点で綱政が満足できる出来栄えになつていたとみられる。

葵友の会 広報コーナー

10月の報告
11日(木)グルメの会。「木曾路」谷原店。12名の参加。妙延寺にお店の車が迎えにきました。



19日(金)カラオケ「バンバン」にて。6名の参加
11月の予定
16日(金)カラオケ

年明けには、恒例の初詣バス旅行に行きます。(事務局)

◆編集委員会より
「あおい通信」は皆様からの原稿を募集しています。 係員・飯島

東西南北

第4次安倍改造内閣発足

十月二日第4次安倍内閣が発足した。首相は記者会見で、社会保障制度改革を「安倍内閣の今後の最大のチャレンジ」と位置付け、第一弾となる雇用制度改革の検討に着手する考えを表明し、週内にも政府の未来投資会議で、雇用制度改革の具体的な検討を始める。そして首相は今回の改造で「全世代型社会保障改革担当」を新設し、茂

木経済再生相に兼務させた。それと同時に「国難と呼ぶべき少子高齢化に立ち向かい、全ての世代が安心できる社会保障へ3年かけて改革を行っていく」と強調した。
憲法改正については、臨時国会への自民党案提出を掲げて総裁選に勝利したとして「結果が出た以上は、党でさらに議論を深めて作業を加速させてほしい」と述べた。公明党山口代表は自民党との事前協議に難色を示しているが、「連立政権を続けてきた信頼関係の中

で、真摯に論議してゆることが大切だ」と語る。その上で「具体的な条文を示さなければ、公明党との議論も国民の理解も深まらない。自民党がリーダーシップをとって、次の臨時国会で改正案提出を目指していくべきだ」とも訴えた。安倍内閣で最多となる12人を初任閣させた。「それぞれのポジションで腕を磨いてきた実務型の人材を集結した。明日の時代を切り開くための全員野球内閣だ」と語った。
ヨッチャン

利用者さんの 綴りコーナー

水野 良子(木)

岐阜から三年前に引越してきました。今はなかなか行けません。旅行が好きでした。バス旅行で日本各地いろいろいきました。



鶴田 千恵子(木)

手芸が好きで、葵でも仲間ができました。家でもやっていると時間がすぐたつてしまいます。材料を買いに行くことが難しく、通販などを利用して見ることができればいいな、と思います。



久保田 恵美子(目)

楽しいことが大好きです。運動も好きで、葵でもせっかくなのチャンスなので、チャレンジしています。



池に落ちた娘

麻生伊登子

六〇年も前の話です。長女が3才、次女が2才、冬の寒い日のことだったと思います。二人共風邪を引いていて心配していました。その頃近所に医者はなく、江古田の練馬病院に行きました。病院の玄関前にハート型の池があり、柵はしてありましたが、その日は二人を連れて診療に行き、終わって池の椅子に腰かけお昼を食べさせていました。ふと見ると隣にいた長女が見えません。池をのぞくとセーターが針金に引っかかり、もがいていました。丁度その時、診療を

もう二十二年に

笠井典子

終わったららしいおじさんが、娘を引きあげナースステーションにかつぎこんでくれました。私が着いた時には毛布にくるまされた娘がストープの前で洋服を乾かしていた所でした。ナースとスタッフのときばきと手早い処置で、何事もな々済ました。後日、病院に行きました。その時のスタッフの方々には逢えず、お礼も云わずじまいです。あの頃の事は今でも忘れられません。まさかと思われませんが、その時の娘は還暦をすぎ、二人の孫たちと暮らしています。ドクタースタッフ、ナースさん ありがとう。

芸能寄席から版

②③ 絹田治夫

②『落語界の救世主女性 真打誕生』
墓の下で眠る名人たちが、目を丸くする出来事が、平成五年三月に起こった。三遊亭歌る多と古今亭菊乃(現・菊千代)が、落語史上初、女真打となったのである。二人に真打の話が出たのは平成三年のこと。菊乃の師匠・古今亭園菊は一旦断つたものの、話題を作ったもの、話題を作ったもの、落語協会の方針とあって結局承諾した。真打に昇進するのは、入門から早くて十三、四年。兄弟子を抜くことに配慮が必要との声も上がり、

最終的には「女真打」という別枠扱いすることになったという。二人の肩書きから、「女」がとれたのは、平成十二年のことであった。

③『戦後初の真打誕生記 念興行も大盛況』

終戦間もない昭和二十九年九月、五代目柳亭左楽の弟子だった四代目柳亭痴楽が、戦後初となる真打昇進を果たした。記念興行は東京で唯一残っていた人形町末広で開催。久しぶりに駆け抜けた明るいニュースに、待ちかねた多くのファンが連日押しかけ大盛況となったのだ。

今回はお終いです。ふわふわ亭わび助



エレベーターの「定員△名」の基準は?

雑学館

乗ると必ず目に付く表示である「定員△名」の文字。「社団法人E.V協会」によるとエレベーターの定員は一人65キロときめていそう。男性65キロなら許容範囲だが、女性はちよつと気になる数字かもしれないね。

自画像

(下ライバー) 伊藤 安治



私は一日のスタートを「明るく」「元気に」「楽しく」をモットーにドライバーとして日々奮闘しております。私が常に心掛けていることは、利用者皆様の立場に立った思いやりのある運転で安全運転に努めております。今日も利用者皆様の送迎を楽しみにハンドルを握り「安全」「安心」を乗せ、頑張りますので今後共よろしくお願いします。

古今抄(長期利用者の紹介)

上野 かつ子

(H22年11月7日から通所)



七年と十カ月、日数にして六百十三日、こんな長い年月を通所出来たのもスタッフの皆様が優しく接して下さったからだ。感謝です。一日でも長く動き続けられる様頑張りたいと思います。

岩崎 数子

(H22年11月7日から通所)



私の体が左半身マヒで十年過ぎになります。葵さんに六年お世話になりました。これから体操やマシンで頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

小林 重隆

(H22年12月7日から通所)



大阪の帝塚山で昭和十八年に生まれました。仕事で海外に3回行きました。最終的に東京に落ちついて、約二十年になります。デイサービスに通い初めて七年目です。これからも元気にマッサージ等を頑張ります。

河角 進

(H22年12月7日から通所)



葵にお世話になって七年になります。週二回火金。特に火曜日の句会は大勢の人達との交流が楽しく、スタッフの人達もよくしてくれるので、盛況を呈しています。これからも頑張ります。